

## 岩手医科大学歯学雑誌投稿規定とその手引き(2007年8月)

1. 本会誌の内容は、総説、原著(研究、症例報告)、予報、短報、トピックス、集会記録、雑報などとする。原稿はこれまで他誌に掲載しなかったものに限る。また、同時に他誌に投稿してはならない。

2. 著者はすべて本学会の会員であること。なお、編集委員会は本会の目的に添う原稿を会員外にも依頼することができる。

3. 原稿の採否は査読者の意見を参考にして編集委員会で決定する。委員会は原稿の改変を著者に求めることができる。掲載論文中の著者の見解については委員会は責任を負わない。

4. 原稿は和文または英文とする。和文原稿は編集委員会で無料配布する原稿用紙を用いるか、A4版の厚手の白紙にパソコンまたはワープロ(文字サイズは12~14ポイント、字間は詰めて横21字、縦22行、左右に余白を充分にとる)を用いて鮮明に作成すること。また、英文原稿はA4版の厚手のタイプ用紙に左右の余白を充分にとりダブルスペースでプリントすること。

編集時間の節約と事故防止のため、図表も含めて完全なコピーを3部添えること。カラー写真は所見が分かればカラーコピーでもよい。

ワープロ(パソコン)を用いた原稿作成で不明な点は本学会事務室に尋ねること。

5. 和文原稿には目的、方法、結論を明確に示す200語程度の英文抄録とこれに正確に対応した日本語訳を付け、英文原稿には800字以内の和文抄録を付けること。英文原稿では目的、方法、結果、結論を含めた抄録を付けることで、結論を省くことができる。

全ての論文には3~5項目の英語による**Key words**を添え、30字以内のランニングタイトルをつけること。

6. 図、表およびそれらの説明文は英語とする。

7. 原稿は原稿用紙30枚(文献を含む)以内とし(約8印刷ページ)、図表は総計15枚以内とする。英文原稿もこれに準ずるが、タイプ用紙は15枚以内が適当である。

8. 研究は9印刷ページ、症例報告は4印刷ページまでは本学会が費用を負担する。ただし、その中の図表の部分については一部著者負担とする。カラー写真、トレース、特殊な材料や方法を用いた場合は著者が負担する。別刷は50部まで無料(ただし、8

印刷頁を越える分は実費)とする。

発行予定ページ(1号100頁以内)を越えて特別掲載を希望する投稿については全額著者負担とする。

9. 予報: 独創的な研究業績で、そのプライオリティを確保するために速かに公表する必要がある場合は予報欄に投稿することができる。図表などを含めて原稿用紙4枚(1印刷ページ)とし、費用は著者負担とする。

10. トピックス: 最近学会などで話題になったものやエッセンスで気楽に会員が読めるもの。原稿用紙4枚以内にまとめること。

11. 集会記録: 総会、例会、談話会などにおける講演、発表の演題あるいは抄録などを掲載する。

12. 原稿とは別に投稿票とチェック票を添えること。投稿票に必要事項を記入し、チェック票は著者自ら各項目にチェックを記入して原稿の正確性を期すこと。チェック項目不備の原稿は受け付けない。投稿票とチェック票は事務局に請求すること。

13. 原稿は次の要領に従って書くこと。(既刊の本誌参照のこと)

a) 標題、著者名(10名以内)、所属機関名(必要ならば指導者名)を第1枚目に記し、その下に同じことを英文でタイプする。共著者が別の機関(講座など)に所属するときは、機関ごとに項目を分けて書き、さらにその下に所属機関の住所を和英両文で記す。

そのほか特に脚註が必要なときも下の方に記入する。英文もこれに準ずる。学会で発表したことについては本文末尾に記入すること。

b) 和文はひらがなまじりで新かなづかいの口語文章体(…である)とし、学術用語は各学会制定のものを用いる。薬品名などは商品名ではなく一般名を用い、略語は初出時に何の略かを明記しておくこと。

c) 仮名づかい、送り仮名については、岩波「現代用字辞典」が分かり易いので参照のこと。

次のような代名詞、接続詞、副詞、助動詞などはひらがなで書くこと。

或いは、如何に、於いて、に拘らず、且つ、する事、する毎に、然し、即ち、全て、総て、其等、但し、の為に、就いては、出来る、~する時、と共に、夫々、何故、~等、殆ど、

d) 数量を示す場合はアラビア数字を用い(150mg, 第3章, 第1部)、不確定数詞には漢字を用いる

(二三の、二三十人、数百メートル、一部分)。

e) 単位はメートル法に準じ、記号のあとにピリオドは打たない。km, cm, mm,  $\mu$ m, nm, pm; l, dl, ml,  $\mu$ l; kg, g,  $\mu$ g, ng, pg, …; % (重量百分率), Vol%, mM, N/10, ppm, ppb, mEq/l; hr, min, sec; 37°C, R, mR, Ci, mCi,  $\mu$ Ci…。

f) 英語の場合は固有名詞と文頭を除き頭文字は小文字で始める。動植物や微生物の学名やラテン語にはアンダーラインを引くこと(イタリックになる)。外国人名は原則として欧文を用いる。

g) 図表の挿入箇所は本文にFig. 3, Table 5のように示すほかに、原稿用紙の右欄外に朱書する。写真も図の中に入れ、写真(Plate)という項は作らない。

h) 図表は本文の最後に別の紙に書いてまとめ、写真は台紙に貼り、これに氏名、付図番号、天地および縮小率の指示などを記入しておく。倍率は最終印刷時の拡大率を示すが、希望通りの倍率にならないこともある。写真に記入するときはタイプトーンなどのようなものを用いること。もし特に専門家に記入を希望するときにはトレーシングペーパーを貼付してその上に書き込み、写真には記入しないこと。

写真の印刷時の大きさは、 $\frac{1}{2}$ 段に入れるときは横6.8cm、1段抜きで入れるときは横14cmが最大幅になる。大き目の写真を縮小した方が美しく仕上がる。縮小率が同じ写真だけを1ページにまとめた方が経済的である。

i) 文献は、引用箇所の右肩に引用順に番号をつけ(…<sup>1)</sup>, …<sup>3~5)</sup>), 本文末に引用順にまとめること。

本文中の引用は、著者が3名以上のときは1名だけの姓と…ら, または…, et al.とする。文献欄には共著者全員の名前を書く。

(1) 雑誌; 略名は医学中央雑誌 収載誌目録(医学中央雑誌刊行会 2006年), List of Journals Indexed in Index Medicus 2006 (National Institutes of Health National Library of Medicine) を参照のこと。

例: 盛岡岩雄: 舌癌の転移に関する研究, 岩医大歯誌, 20:270-283, 1995.

Maiden, M. F. J., Tanner, A., and Macuch, P. G.: Rapid characterization of periodontal bacterial isolates by using fluorogenic substrate tests. *J. Clin. Microbiol.* 32:376-384, 1996.

欧文雑誌名は最後の語を省略しないときは点をつけない(Dental Echo)。アンダーラインを引いておく(イタリックになる)。

未発表の論文は本文中に記載するにとどめ、文献欄には入れない。現在、印刷中のものは入れてよい。投稿中でまだ採否不明のものは未発表のものと同じ。

(2) 単行本;

例: Koneman, E. W., Allen, S. D., Janda, W. M., Schreckenberger, P. C., and Winn, W. C. Jr.: Color atlas and textbook of diagnostic microbiology. 4th ed., J. B. Lippincott Co., Philadelphia, pp431-466, 1992.

江藤一洋: 発生・成長・老化, 坂田三弥, 中村嘉男 編集: 基礎歯科生理学, 第2版, 医歯薬出版, 東京, 258-266ページ, 1994.

翻訳書の例: Carranza, F. A. Jr., ed.; 原 耕二ほか訳, グリックマン臨床歯周病学, 第6版, 西村書店, 新潟, 212-236ページ, 1984; Glickman's clinical periodontology; 6th ed., W. B. Saunders Co., Philadelphia, 1954.

j) 原稿を送るときは、投稿票、標題ページ、英文抄録、和文訳、本文、文献、図表、付図説明の順に封筒に入れること。英文の場合もこれに準ずる。

14. 著者校正の場合は誤植などの訂正のみにとどめ、加筆修正は原則として認めない。

15. 原稿の内容は医の倫理に反しないものであること。

16. 本誌に掲載された論文の著作権(著作財産権, Copyright)は本学会に帰属する。

17. 原稿の送付先

〒020-8505 岩手県盛岡市中央通1丁目3-27 岩手医科大学歯学部内 岩手医科大学歯学雑誌編集委員会に「原稿在中」と朱書して書留で送付すること。